

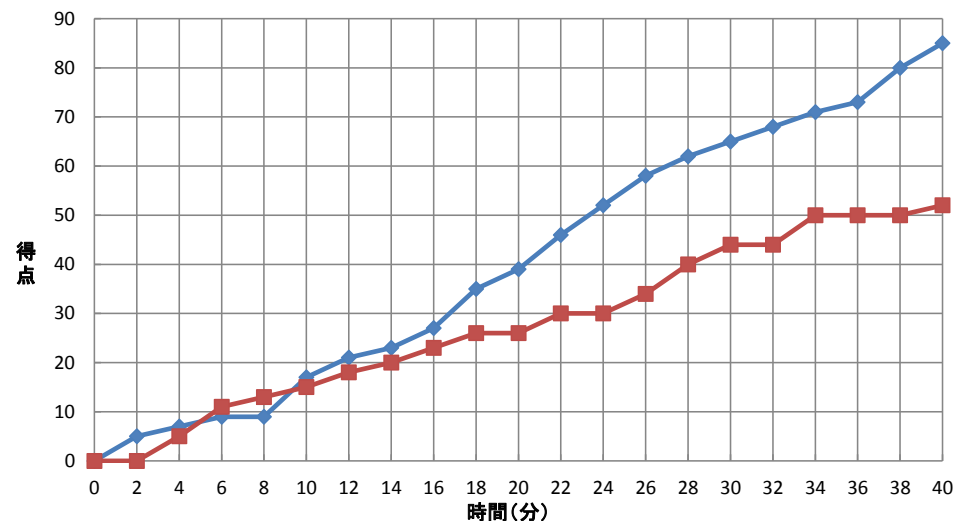


平成27年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会
第68回全国高等学校バスケットボール選手権大会

個人トータル表

女子		平成27年7月29日 11:10 開始													
1回戦		京都学園大学	K												
◎ 横浜清風 (神奈川県)	85	<table border="1"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>15</td></tr> <tr><td>22</td><td>2nd</td><td>11</td></tr> <tr><td>26</td><td>3rd</td><td>18</td></tr> <tr><td>20</td><td>4th</td><td>8</td></tr> </table>	17	1st	15	22	2nd	11	26	3rd	18	20	4th	8	52 奈良文化 (奈良県)
17	1st	15													
22	2nd	11													
26	3rd	18													
20	4th	8													
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則		
* 4	小針 麗良	14	2	4	0	2	* 4	米田 百花	15	2	4	1	5		
* 5	盛合 優花	20	2	4	6	1	* 5	江草 晶帆	10	2	1	2	5		
* 6	北本 有架	7	1	2	0	2	* 6	矢内 沙季	0	0	0	0	2		
* 7	樽松 芽生	18	4	2	2	0	7	小野 智聡	0	0	0	0	1		
8	佐藤 桃	0	0	0	0	1	8	吉川 安紀	0	0	0	0	0		
9	上野 真愛	3	0	1	1	1	* 9	村島 佳奈	12	0	4	4	3		
10	伊原 星	2	0	1	0	1	10	熊谷 萌	0	0	0	0	0		
11	西村 綾	5	0	2	1	1	11	永山 莉央	3	1	0	0	2		
* 12	児島 秋穂	8	0	4	0	4	12	岡田 奈巳	0	0	0	0	0		
13	竹村 厚美	2	0	1	0	0	* 13	江木 千夏	12	0	5	2	0		
14	西畑 芽衣香	6	0	3	0	0	14	石垣 茜音	0	0	0	0	0		
15	長岡 実優	0	0	0	0	0	15	井出 琴美	0	0	0	0	0		
コーチ	出川 啓子					0	コーチ	川崎 弘策					0		
Aコーチ	石井 美千夫						Aコーチ	末永 香里							
合計		85	9	24	10	13	合計		52	5	14	9	18		
主審: 吉田 智子															
副審: 斉藤 嶺															

得点経過



CTO	1・2P	3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	6:51	:	:	:	:	:	:	:
TeamB	12:38	18:35	:	:	:	:	:	:

〔戦評〕

県予選では旭を僅差で下し神奈川の女王となった横浜清風と、県予選の6試合をすべて30点差以上つけて勝ち上がってきた奈良文化との一戦。

両チームともスローインからプレッシャーをかけるオールコートマンツーマンで試合開始。ディフェンスからの速攻を得意とする横浜清風は序盤から積極的にしかけていく。奈良文化はなかなか得点できない状況が続くが、#13のドライブインでリズムをつかみ始める。ドライブに対しても全員がカバーにより、簡単には攻めさせず奈良文化のペースで試合が進む。しかし残り1分、横浜清風#5の3Pが決まり1点差まで詰め寄せるとさらにたたみかけ#7の3Pで逆転に成功。17対15で横浜清風がリードして第1P終了。

第2P、横浜清風はオールコートマンツーマンと2-1-2ハーフコートゾーンをうまく使い分け、積極的にバスケットを狙い速攻につなげると、得点を重ねていく。奈良文化は#10#13のドライブインからうまくパスを回し果敢にシュートを狙うが横浜清風の高身長に阻まれてしまう。その焦りからかファウルもかさみ、流れをつかんだ横浜清風が13点リードで前半終了。

後半、横浜清風は#4が冷静にボールを運び巧みなパスワークでバランスよく点がとれている。奈良文化は点差をつめるためディフェンスを激しくし、#13のスピードあるドライブとスクリーンをうまく使って3Pで応戦する。ところが、残り5分奈良文化#5がファウルアウト。#4#13のバスケットカウントやジャンプシュートなどでなんとか食らいつつあるが、横浜清風#7の3Pが当たり65対44で第3P終了。

第4P、奈良文化は交代しながらどうにか点差を縮めようと奮闘するがせっかく掴んだシュートチャンスもリングに嫌われてしまう。さらに残り3分#4がファウルアウト。要である2人を欠いてしまうと攻める手を失ってしまう。一方横浜清風はベンチメンバーが全員コートに立ち、いきいきとしたプレーを見せた。最後まで冷静であった司令塔率いる横浜清風が2回戦に駒を進めた。奈良文化は1年生の#9#10#13が踏ん張りを見せ最後まであきらめずに戦い抜いた。

戦評: 中川 彩

記録: 山城高校